

# 小項目評価の論点に関する検討結果について

## 第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標

平成25年度計画	小項目番号	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント(案)
提案型の企業支援に向けたサービス体制の強化	1	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成24年度から強化してきた体制のもとで、企業の課題を把握し、解決につながる支援(受託研究、依頼試験、機器開放等)を提案する「提案型企業支援」を組織的に実施した。</li> <li>● 平成25年度計画どおりに設置した「ものづくりリエゾンチーム」が中心となり、課題を抱える企業に対して戦略的に提案を行って産技研利用につなげ、企業の課題を解決する活動を実施した。</li> </ul> <p>◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。</p>
「出かける」活動の推進	2	Ⅳ	≠	Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現地相談数は「攻め」の事業展開を実施する上での極めて重要な活動指標であり、過去の平均値の5割増しを設定しているにもかかわらず、積極的に「出かける」活動を推進した結果、目標値を大きく上回って達成した。さらに、産技研未利用企業を積極的に訪問したことにより、利用登録者数を約2,300名増やした。</li> <li>● 新設した「ものづくりリエゾンチーム」を中心として、課題を抱える企業を戦略的に訪問し、多くの企業の課題を解決した。また、包括連携協定締結自治体と連携し、提案型の企業支援による顧客拡大を一層効果的に実施した。</li> </ul> <p>◎ これらの取組みは、十分な実績をあげており、年度計画を上回って実施している。また、現地相談については、単なる企業へのサービスに留まるだけでなく、「出かける」活動を行うことは産技研の研究の一環で、人材育成にも充てている非常に有益な取組みであり、その現地相談件数等において目標値を大幅に上回っていることから、自己評価の「Ⅳ」を上回る「Ⅴ」評価とすることで、今後のさらなる活躍を期待したい。</p> <p>※ 平成25年度に新設した「ものづくりリエゾンチーム」については、非常にアクティブであり、コーディネート能力が高い。一方で、現地相談件数は、当初の目標数に対して2年連続で大幅に上回っていることから、目標値の見直しの検討が必要。数値目標ばかりにとられ、相談自体のクオリティを保つことが必要である。</p>
ニーズの把握と顧客満足度の検証	3	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成24年度に引き続きアンケート調査を実施し、顧客満足度を検証した上で、顧客の不満を職員が共有し、サービス改善に活かした。</li> <li>● 地元和泉市・和泉商工会議所と包括連携協定を締結し、ものづくり企業に関する情報の収集機能を一層強化した。また、包括連携協定に基づいて、補助金申請に意欲がある企業や、具体的な技術課題を抱えている企業の情報を収集し、提案型支援に活かした。</li> </ul> <p>◎ これらの取組みは、計画を順調に実施しており、自己評価の「Ⅲ」は妥当であると判断した。</p> <p>※ アンケート調査については、利用者が利用施設である公設試に対して、否定的な記載はできない。アンケート結果における顧客満足度が高いとされるが、不満の記載もあることから、回答内容の分析は常に実施する必要がある。現場の本当の声を反映することが大事である。したがって、利害関係のない第三者によるアンケート調査の実施を検討することも必要。</p>
積極的な情報発信	4	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業界団体等への情報発信・協力件数は、産技研の研究開発成果や保有技術などを中小企業に移転し、製品化・実用化につなげる上で重要な実績値であるが、目標水準を大きく上回って達成した。</li> <li>● ホームページにおけるトップページのデザインを一新し、産技研ホームページのアクセス件数を増加させ、ダイレクトニュース登録者数、展示会でのプロモーション回数なども積極的に活動することで、昨年度実績を上回る水準で実施した。また、エントランスホールにおいて、新たに導入した装置・機器の紹介動画を上映し、機器開放件数の増加につなげた。</li> </ul> <p>◎ これらの取組みは、創意工夫に基づいた情報発信を実施したことで、年度計画を上回っていることから、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</p> <p>※ 産技研が児童・生徒に対して実施している「みつけてサイエンス」等のイベントは、大阪の産業を担う将来の科学者やエンジニアリングを目指す小学生・中学生を育成する有意義な取組みである。</p>

「つなぐ」取組の推進	5	Ⅲ	＝	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係機関であるMOBIO、大学、自治体などとは、引き続きMOBIO-café (MOBIO)、包括連携協議会 (大阪府立大学)、包括連携協定に基づく各種会議・企業訪問などの連携事業を実施した。</li> <li>● 新たな取組として、地元の和泉市及び和泉商工会議所と包括連携協定を締結し、ものづくり企業への支援体制をより一層強化した。</li> <li>◎ これらの取組み実績を踏まえ、地元自治体等との連携が進んでおり、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</li> <li>※ 地元自治体等との様々な連携が進んでいるが、包括連携協定以外においても、自主的な連携をしていく必要がある。</li> </ul>
新たなサービスの実施 ①依頼試験 ②設備機器開放 ④技術者育成	6	Ⅲ	＝	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成24年度から新たに開始したサービス（オーダーメイドの依頼試験や技術者育成、設備機器開放のインターネットによる予約状況確認）を、引き続いて実施した。</li> <li>● 関西圏の公設試では初の試みである利用時間延長サービスを年度計画通りに実施。さらに、依頼試験対応の特急サービスについて、「ワンデイサービス」として制度の詳細を検討し、平成26年度から実施することを決定。</li> <li>◎ これらの取組み実績を踏まえ、十分に顧客対応していることから、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>
新たなサービスの実施 ③受託研究	7	Ⅳ	＝	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 簡易受託研究は、法人化を契機に機動性を向上させて企業ニーズに的確に応えた好例であり、その実績値は、産技研職員が「提案型」の企業支援を行った成果を表しているが、利用実績数が昨年度を大きく上回る水準で実施し、利便性の高いサービスとして顧客に定着している。</li> <li>● 試料を郵送によって受け付けるサービスを新たに導入し、手続きを簡素化することで、顧客の利便性をより一層高めた。</li> <li>◎ これらの取組み実績を踏まえ、手続きの簡素化等の工夫により、企業への利便性が向上し、年度計画を上回っており、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>
既存サービスの充実 ①技術相談	8	Ⅳ	＝	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来所・電話・メールによる技術相談件数は、技術支援の基本であり、また、産技研の知名度や利用者の満足度を反映するものであるが、年度計画の目標値を大きく上回って実施した。</li> <li>● アンケート調査結果における技術相談の顧客満足度は95%を超え、相談件数が増えてもなお、高い顧客満足度を維持できている。</li> <li>◎ これらの取組みにより、相談件数は年度計画を上回っており、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>
既存サービスの充実 ②依頼試験 ③設備機器の開放	9	Ⅳ	＝	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究員の専門的な知識・ノウハウを活用した信頼性の高い依頼試験と、他の公設試では開放していない先端機器まで開放する設備開放は、中小企業の産技研に対する強いニーズの一つであり、産技研の自己収入につながるもので、運営面でも極めて重要な指標であるが、戦略的に、産技研ラボツアーの実施と機器紹介動画の作成・上映を行い、昨年度よりも大幅に依頼試験及び設備機器開放件数が増加し、目標値を大きく上回った。</li> <li>◎ これらの取組みにより、依頼件数及び設備機器の開放件数は、年度計画を上回っていることから、自己評価の「Ⅳ」評価が妥当と判断した。</li> <li>※ 機器利用講習会や産技研ラボツアーを頻繁に実施したことが、依頼試験及び設備機器開放件数の増加に寄与しており、有益な取組みであるので、今後とも更なる工夫を期待する。</li> </ul>
既存サービスの充実 ④受託研究	10	Ⅳ	＝	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受託研究は、産技研の研究成果や設備が企業の製品開発・改良や不良原因の解明などに活用されていることを示す指標であるが、的確に企業ニーズを把握し、年度計画の目標値を上回って実施した。</li> <li>● 受託研究の顧客満足度は91%であり、高い満足度を維持したまま、利用件数を増加させている。</li> <li>◎ これらの取組み実績を踏まえ、受託研究数の目標値を上回り、産技研の努力を十分に評価できることから、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>

既存サービスの充実 ⑤顧客の利便性向上	11	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産技研利用に関するアンケート実施し、顧客目線の必要な改善を行っていること、新たに依頼試験の郵送受け付けサービス適用範囲を拡大し、簡易受託研究でも試料の郵送サービスを実施した。</li> <li>◎ これらの取組み実績を踏まえ、顧客の利便性を向上させたことにより、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>
企業の新技術・製品開発のニーズに応える設備機器の整備	12	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マーケティング・リサーチを活かした設備機器の選定、導入後の積極的なPR及び稼働状況調査など戦略的な取組みを実施した。</li> <li>● 機器の利用を促進するための機器利用技術講習会は目標値を大きく上回って実施した。</li> <li>◎ これらの取組みは、年度計画を上回っていることから、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</li> </ul> <p>※電波暗室については、公設試は価格面で安く利用できることから企業からのニーズが高いため、部屋数を増やす等の企業への利便性向上の検討が必要。</p>
基盤技術や成長分野の技術者育成等、インキュベーション施設を活用した起業家・中小企業等への成長支援、技術支援のフォローアップ	13	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成24年度に引き続いて技術講習会を実施するとともに、企業や大学から研修生を受け入れて育成した。</li> <li>● インキュベーション施設を活用した起業家・中小企業等への成長支援については、利用できる全ての部屋を活用して取り組むとともに、技術相談や機器開放など通常の支援メニューの他に交流会の開催や成果報告会を実施した。</li> <li>◎ これらの取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>
戦略的テーマに関する研究開発 ①研究開発の重点化、②企業への共同研究等の提案	14	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 競争的研究資金は、若手研究者の積極的な挑戦を促すことで申請書作成のスキルアップを図り、また、企業が主担となって競争的研究資金に応募する際の支援力向上を目指すために、応募件数を目標値として設定しているが、この目標値を大きく超えて達成した。</li> <li>● 新たな取組として公募型共同開発事業を企画し、平成26年度からの実施を決定した。また、大阪府や金融機関等の外部機関と連携し、技術支援のみでなく、事業化や販路開拓等まで伴奏して支援するスキームを創設した。</li> <li>◎ これらの取組みは、十分な実績とともに、年度計画も上回っていることから、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</li> </ul> <p>※ 産技研には、中小企業の支援という基本となるミッションがある中、研究員が先端技術に触れることにつながる競争的研究資金に応募することは、産技研にとっても有意義であり、積極的な応募が求められるので、各研究員の業務バランスがどちらかに偏らないよう、産技研でのハンドリングが必要。</p>
戦略的テーマに関する研究開発 ③研究開発成果の評価と共有・活用	15	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基盤研究、発展研究及びプロジェクト研究それぞれについて、研究報告会を年2回実施し、評価を行い、継続の可否判断や研究資源の配分を実施した。</li> <li>● 研究成果の所内共有を行うとともに、企業への技術移転という「出口」を見据えて、進捗確認を実施した。</li> <li>◎ これらの取組み実績を踏まえ、所内での情報共有やものづくりリエゾンチームとの連携等の努力が認められることから、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>
研究開発成果の提案と技術移転 ①研究開発成果の技術移転・情報発信の促進、②大学の研究開発成果の橋渡し、③知的財産権を活かした企業支援	16	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中小企業への技術移転を図り、製品化・実用化へつなげる役割を果たす講習会等での情報発信件数、産技研のもつシーズのアピールや産技研研究員の資質向上となる学会等での発表件数、競争的研究資金の獲得や技術シーズ創出などの企業支援に繋がる研究所としての基盤的な活動である論文投稿件数が、年度計画の目標値を上回った。</li> <li>◎ 以上の取組みは、年度計画を上回っていることから、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>

連携の促進 (1)行政機関、金融機関等との連携による多様な支援、(2)産学官連携の推進、(3)広域連携の着実な推進、(4)地域との連携と社会貢献	17	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大阪府、MBIO、府立大学、金融機関等、商工会議所、関西広域連合等と、様々な連携（MBIO-cafe、大阪府立大学との包括連携協定協議会、銀行向けの産技研見学会開催、大阪商工会議所との研究発表会や産技研プロジェクト研究報告会の共催、関西広域連合との包括連携協定に基づく情報活用や人材交流など）を実施した。</li> <li>● 地元和泉市と和泉商工会議所との三者協定を締結し、セミナーの共催を実施するとともに、子どもを対象に産技研を開放する府民開放事業「工作・実験教室、機器等の実演・体験」を実施し、科学の不思議さや楽しさを伝えるなど、社会貢献を実施した。</li> </ul> <p>◎ これらの取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</p>
大阪市立工業研究所との統合に向けた取組の推進 (1)経営戦略の一体化に向けた取組、(2)業務プロセスの共通化に向けた取組、(3)研究開発における連携の推進、(4)技術支援サービスや情報発信等における連携の推進	18	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 府市合同経営戦略会議において、経営戦略の方向性を決定するとともに、企画調整部会及び2つのワーキンググループの下で、業務プロセスの共通化及び連携事業の推進に積極的に取り組んだ。</li> </ul> <p>◎ 以上の取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</p>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

平成25年度計画	小項目番号	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント（案）
自主的、自律的な組織運営 組織マネジメントの実行とPDCAサイクルの確立、予算執行や人事制度の効果的な運用、積極的な営業展開等を実現する組織体制	19	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営企画室が中心となって理事会、経営会議、四半期報告会などの各種会議を運営する中で、重要な方針の決定や業務進捗の管理を行い、適切に組織をマネジメントした。さらに、所用車、職員端末及び複写機のリースなどについて複数年にわたる契約を締結し、効果的な予算の運用に取り組んだ。</li> <li>● 職員採用について、専門分野の筆記試験を課さず、応募書類での経歴評価によって選考する追加募集を実施するなど、職員採用を弾力的に実施し、多様な人材を確保した。</li> </ul> <p>◎ これらの取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</p>
職場、職員の士気を高め、職員の能力を向上させる取組 人事評価の人事・給与への反映、職員へのインセンティブ、職員の人材育成	20	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人事評価の人事・給与への反映については、人事評価制度の施行実施及びその結果検証を行い、26年度からの本格実施につなげるとともに、職員の人材育成については、平成24年度に引き続いて、知財活動研修や人権研修など必要な研修を実施した。</li> </ul> <p>◎ 以上の取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価が妥当と判断した。</p>
業務の効率化	21	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成24年度に導入した総務事務システムを運用し、個々の職員及び総務事務担当者が業務を効率的に処理したとともに、物品購入時の検品について、窓口を総務課に一元化し、職員の事務負担を軽減。さらに、大規模改修業務については、CM方式を採用することで、効率的に施工管理等を実施した。</li> </ul> <p>◎ 以上の取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</p>

## 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

平成25年度計画	小項目番号	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント（案）
1 事業収入の確保、2 外部資金の獲得、3 予算の効果的な執行等	22	Ⅳ	=	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 競争的研究資金等の外部資金の獲得等の自己収入増加に向けた各種の取組みを行ったことにより、前年度比で自己収入が約3,000万円増、事業収入が約1,100万円増という成果を得たことで、当期純利益2億7,500万円の純利益を計上し、年度計画を上回る財務内容の改善を実施した。</li> </ul> <p>◎ 以上の取組みは、年度計画を上回っていることから、自己評価の「Ⅳ」評価は妥当と判断した。</p>

第8 その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置

平成25年度計画	小項目番号	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント(案)
施設の有効活用等 (1)施設の計画的な整備・活用等、(2)設備機器の整備、(3)安全衛生管理等の徹底、(4)環境への配慮	23	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建物及び附帯設備の改修について、空調熱源改修工事は、計画どおり、法人独自でCM方式により業者を選定するとともに、課題となっていた北側未利用地の活用案を絞り込み、中間報告書にまとめた。</li> <li>● 設備機器について、導入・保守点検ともに計画的に実施し、安全衛生管理等についても、職場巡視等を実施した結果、重大な事故を発生させなかった。</li> <li>◎ これらの取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価が妥当と判断した。</li> </ul>
法令遵守に向けた取組 (1)コンプライアンスの徹底、(2)情報公開、(3)個人情報保護と情報セキュリティ、(4)リスク管理	24	Ⅲ	=	Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法令遵守と安全確保について、組織内での情報共有や職員研修を実施し、職員の法令違反や情報の漏洩、装置使用や実験上の負傷といったリスク管理上の重大事案は発生させなかった。</li> <li>◎ 以上の取組みは、計画を順調に実施したと判断し、自己評価の「Ⅲ」評価は妥当と判断した。</li> </ul>

【委員コメント】

- ・ 年度計画に基づいて、企業ニーズに的確に対応し、顧客目線での新サービスを開始するなど誠実に実施しており、産技研の目的である中小企業の振興に寄与したことを強く実感した。
- ・ 産技研が保持している高いクオリティを更に向上させるためには、あらゆる機会を活用し、報道機関等への情報提供などのPR活動を積極的に行うことが必要。また、報道機関等に取り上げられ注目を受けることは、数多くの府民・企業の目に留まり、産技研の利用数増加へとつながるとともに、職員のモチベーション向上や研究開発の新たな発想の起点につながる等の効果が期待できる。
- ・ 産技研が年度画及び中期計画における数値目標に対して、右肩上がりの実績を残すことは企業ニーズに対して十分に応えた結果であり、素晴らしい成果である。しかし、一方で数値目標に縛られすぎて、件数ばかりを追い求めることは、技術支援を通して企業の課題解決に最適なサービスを実施する産技研の本質と離れてしまいがちであり、留意する必要がある。
- ・ 産技研は中小企業に対し、技術支援を通じて基盤技術の高度化や信頼性の実証などの支援を行うことが、基本事業であるが、「研究所」として、技術革新を通じて社会的・経済的な価値を創造する公的研究機関という側面もあるので、企業への支援や相談の数値だけで評価するのではなく、研究機関としての研究開発や研究開発成果の技術移転実績も求められる。
- ・ 産技研は25年事業年度において、①技術支援機能の強化、②つなぐ取組の推進、③自主的・自律的な組織運営の3つの取組みを柱に掲げ、いずれも目標を達成するという素晴らしい成果を上げているので、さらにPRして、成果を府内外へと積極的にアピールしていく必要がある。  
また、府民一人あたりのサービス提供数や一企業あたりにおける支援数などにおいては、他府県と比べると下回っていることを所員一人ひとりが認識し、常に他機関との比較検討による自己評価を実施した上で、サービス向上に向けた新たな取組みや研究所全体のレベルアップを図り、産技研の機能を更に充実させ、大阪・関西の産業振興の発展に寄与することが必要である。